

# 読む喜びに出会う

作家 北村薫さん =1967年度卒

## 埼玉県立春日部高

1

「母校をたずねる」は今月から、埼玉県立春日部高校（春日部市）編を連載します。「かすこ」の愛称で親しまれ、「質実剛健」「文武両道」をうたう創立122年の伝統校です。直木賞作家の北村薫さん（71）＝1967年度卒＝は卒業後、国語教師として母校で13年間教壇に立ち、在職中に「覆面作家」としてデビューしました。「春高は自分の基礎を作ってくれたところ」と振り返り、「本とじっくり向き合うこと」の大切さを訴えます。【萩原佳孝】

入学式の後、講堂で聴いた歓迎演奏が素晴らしい。シベリウスの交響詩「フィンランディア」。出だしの重厚な音色が響いたとき、新しい生活がこれから始まるんだと思いました。同じ中学出身の友だちと図書館に通い、詩の全集を次から次へと読んで「こんな詩があった」と報告し合いました。楽しかったですね。「読む」というのは単に目で活字を追いかけるだけではなく、実はすごく能動的な行為です。一冊の本から何をくみ取るかは読む人によって違います。本の中の「宝」をつかみ取りたい、良き読み手になりたい

いと思っていました。星新一をまねて、大学ノートにショートショートを書いては友だちに見せていました。生徒会誌に小説を書いたこともありましたが、憧れはありました。ただ、自分が実際に作家になれるとは思っていませんでした。

国語の堀越祥先生の印象は強いですね。とにかく怖い。教室に入ってきた時から、学問に対する真摯な姿勢、思いがひしひしと伝わってきて、うかつには授業を受けられないぞという思いになりました。ところが、授業のあと恐る恐る質問に行くと、ニコッと笑って答

きたむら・かおる 1949年、埼玉県杉戸町生まれ。早稲田大では「ワセダ・ミステリ・クラブ」で活動。同県立杉戸農高、春日部高で21年間勤務した。89年、「空飛ぶ馬」（東京創元社）でデビュー。93年退職し、本格的な作家活動に。「覆面作家シリーズ」「ベッキーさんシリーズ」などで知られ、2009年、「鷲と雪」で直木賞受賞。読書の楽しみをつづった「読まずにはいられない」（新潮社）などエッセー集も出版。

えてくれ、それがなんともうれしくて。そういう人間力があつた。この先生に教わることでできてよかったと思いました。

体育の授業も忘れられませんが、ひざがガクガクするほど走らされた。大変でしたが、成長期に体力をつけてもらったことは、今思えばありがたいことでした。春高はいろいろな意味で自

分の基礎を作ってくれたところだったと思います。

高校の国語教師だった父の影響もあって、教師を選ぶのは自然でした。私は萩原朔太郎の詩に出会って言葉の魅力を知り、言葉に触れる喜びを伝えられたらいいと思っていました。知るは楽しみなり、といいますが、生徒が知への興味、関心を持てるよう授業に取り組みました。

同僚にも力のある先生がたくさんいました。社会科の宮内正勝先生は「授業はバトルだ」と言って職員室を出て行く。楽しくて仕方ない様子でした。生徒が教師を好きになるといふのは、その教科を好きになることでもあります。その逆もまたあり、先生の力は大きい。そんな思い出に残る

先生が大勢いるというのも、春高のいいところです。現代は、デジタルでいろいろな情報が簡単に手に入ります。ただ、スマホなどで短い文章をパッと流すように読んでいくのと、紙の長い文章をじっくり読むのとは、同じ読むのでも大分違います。子どものころによく遊ぶとか、硬いものをしっかりと食べるということと同じで、本に触れるということも人間が成長するうえで大切なこと

ではないでしょうか。何でも手軽に、性急に、分りやすい答えや結果を求める風潮が強まっているように思います。しかし、本にいいものは分りにくいこともあります。5年たち10年たつて読み返すと「ああ、そうだったのか」と気づかされることがある。本をしっかりと読むということはものを深く考える力を養うことでもありません。後輩たちにぜひ伝えたいことです。

### 卒業生「私の思い出」募集

埼玉県立春日部高校卒業生のみなさんの「私の思い出」を募集します。300字程度で、学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などをお書きください。

卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100-8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係（住所不要）へ。メールの場合は [shuto@mainichi.co.jp](mailto:shuto@mainichi.co.jp) へ。いただいた「思い出」は、紙面や毎日新聞ニュースサイトで紹介することがあります。

## 創立122年 自由で質実な校風



1999年に新校舎が完成した埼玉県立春日部高校—萩原佳孝撮影

埼玉県立春日部高は1899（明治32）年に創設された男子校（全日制）。1948年には男女共学の定時制課程が設置された。122年の歴史の中で、約3万7000人の卒業生を各界に送り出している。

粕壁町（当時）に県第四中学校として開校し、2年後に粕壁中学校と改称

された。48年の学制改革でいったん粕壁高校を名乗ったが、それに先立つ44年の町村合併で、古代から由来のあるとされる「春日部」が町名に採用されたため、49年に春日部高校と改称した。旧制中時代は「粕中」、現在は「春高」と書いて「かすこ」という呼び名で親しまれている。

校訓は「質実剛健」、教育方針は「文武両道」。生徒の自主性を重んじる、自由でおおらかな校風で知られる。全日制は生徒全員が4年制大学進学を希望する県内有数の進学校で、運動、文化の部活動も盛んだ。

同窓会（日向英美会長）活動も活発で、県内外に37支部がある。2019年には創立120周年を祝う「大人の春高祭」を、約700人を集めて開催した。記念事業として生徒に奨学金を給付する「大河滔々奨学基金」も創設した。

次回は14日に掲載